



### 「雪だるまでの出来事」

26日(金)に学校の帰りがけにお腹が減ったのでラーメン屋の「雪だるま」に寄りました。いつものようにカウンターの席に座って、メンマラーメンを注文しました。ラーメンができるまでの手持ち無沙汰の時間をスマホでつぶしていると横の席に親子づれが座ってラーメンを注文しました。なにげに、横に目をやると、城山中学校3年生のA君でした。お父さんと二人でご飯を食べに来たようでした。私は、横に座ったA君の肩を軽く叩いて「A君！ご飯食べに来たのかな？」と声を掛けました。「あッ！先生、こんばんは」とびっくりした表情でA君が答えました。

私は、A君の心を傷つけた発言をしてしまったと反省する事がありました。それは、二週間ぐらい前に2階のガラスにひびが入る出来事のことでした。誰が壊したのか申し出もないのでどのように壊れたのかわからない状態でした。私は、時々いたずらをして指導をされるA君に、「A君、ガラスのこと何か知らないよね？」と廊下ですれ違う時に尋ねました。するとA君が「先生まで、なんで僕にそんなこと聞くの…」と答えてきました。私は、「ごめんね、何も知らないよね！」と謝罪しましたが、A君はいつもと違う雰囲気教室に入って行きました。軽い気持ちでA君に質問した自分を深く反省しました。自分も小中学校の時に何かあると必ず複数の先生が「水野は、このことを知らないか」と聞いてくるのがすごく嫌でした。きっとA君も嫌だし、寂しい気持ちになったに違いないとは思いました。それ以後、何かA君との距離が遠くなったようで私自身寂しい気持ちになり、自分の発言を後悔していました。

ラーメンを食べながら、高校入試のことなどを話しました。お父さんが「先生とお話できるのも、後、数か月だから頑張らないとね」とA君を励ましました。「卒業しても、いつでも会えますし、いつでも学校に来てください。卒業してもずっとA君の先生です。」とお父さんとA君に伝えると「ありがとう」とお父さんが笑顔で答えてくれました。ラーメンが食べ終わって、席を立とうとしたときに、A君が「先生、一緒に写真撮っていいですか？先生とラーメン屋で会うなんてちょっとないので記念に撮りたいです」とA君が笑顔で話しかけてきました。「いいよ、撮ろう！」と二人で写真を撮りました。「ありがとうございます」とA君は礼を言った後に「先生、月曜日の学年だよりの『夢の宅配便』に今日のこと書いてください！」といつもの距離感のない表情で私に話しかけてきました。「いいよ！『夢の宅配便』に書くよ」と私も彼と約束してラーメン屋さんを出ました。

何よりも、A君がいつもの距離感のない表情で一週間ぶりに私に話しかけてきたことがとてもうれしかったです。そして、もう一度心の中で「ガラスのこと……ごめんね」とつぶやきました。